

教材・教具名	挟む教材	教科・領域等	図画工作科
情報提供者	小学部 2年 5組	氏名	濱元 莉菜

## 教材・教具写真



## 1 教材・教具の説明

本学級に在籍する児童2名は、感覚に過敏性があり、絵の具を触ることが苦手である。図画工作の時間に折りたたんだ和紙に色水を付ける授業があり、絵の具が手に付くことをできるだけ避け自分から主体的に活動に取り組むことができるように、そして児童が持ちやすい補助具になるようにということを考え、本教材を作成した。

作成方法は、洗濯ばさみに紙粘土を丸めたものをくっ付けるだけである。洗濯ばさみを用いることで、和紙をはさめるようにした。児童の苦手でない感触である、固まった紙粘土を用いることで、児童自ら持ちやすいように持ち、絵の具に自分からかかわる姿を見ることができた。また、紙粘土を丸い形にしたことで、絵の具の感触が苦手でない児童も、補助具の一つとして本教材を積極的に使用する姿が見られた。

## 2 その他

参考文献・Web

【教材・教具解説】

教材・教具名	とんかちトントン	教科・領域等	図画工作科
情報提供者	小学部 6年 1組 氏名 岡本 瑞穂, 本多 裕美		
教材・教具写真 (規格: 縦 8cm×横 2cm×高さ 2cm)			
			
<p>1 教材・教具の説明</p> <p>図画工作科「ボール転がしゲームをつくろう」の授業の中で、木槌を用いて板に釘を打つための教具を作成した。「ボール転がしゲーム」とは釘打ちの学習をしながら、ビー玉を転がす楽しいゲームを作ることができるものである。</p> <p>課題としては、①釘が細くて短いため持ちにくく、垂直に立てづらい。②釘を指で固定すると、誤ってその指を打ってしまう危険性がある。③力の加減をしないと釘を打ち切ってしまう、本来残さなくてはならない高さがなくなってしまう。ことが挙げられる。</p> <p>この教具のポイント・使用する利点としては以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 洗濯ばさみの形状そのものを生かして、釘を穴に垂直に入れ、固定することができる。</li> <li>② 洗濯ばさみの持ち手の部分を持つことにより、釘を間接的に垂直に支え打つことができる。</li> <li>③ 洗濯ばさみの厚さ以上は釘を打ち込むことなく、釘そのものを打たなくていいので高さを維持でき、安全である。</li> <li>④ 使用方法がシンプルで、「(とんかちトントンの中に) 釘を入れる」→「(釘を) 打つ」→「(とんかちトントンを) 外す」操作で安全に使用することができる。</li> </ul> <p>2 その他</p> <p>改良点としては、とんかちトントン自体にある程度大きさがあるので幅が狭い場所を打ちにくくなっていた。既存のものを生かすという意味では有効であったが、持ち手以外の部分を削るなどして小型化できると狭い場所でも打ちやすかった。</p>			
参考文献・Web			

教材・教具名	描画用自助具	教科・領域等	日常生活の指導、図画工作など
情報提供者	小学部 6年 4組 氏名 佐々木章也, 篠原彩		

教材・教具写真 (規格: 縦13cm×横4cm×高さ2cm)



## 1 教材・教具の説明 【対象・使い方】

絵などを描くときの補助具で、グーで握る、腕を動かす、手首を動かすなどの運動はできても、手首をひねって描くことは難しい肢体不自由の児童生徒に使用する。

クレパスなどを使うとき、グーで握ると描画部を画用紙の面に向けて描くことが意外と難しく、せっかく握ることができても、描画に苦手意識の高い児童生徒は多いと思われる。

そんなときにこれを使用すると、握ったクレパスなどの描画部が横を向き、すぐに画用紙の面に向けることができる。描いた部分がすぐに見えるよう、チェインジングボード(斜面台)などと併用するとさらに効果的である。

## 2 その他 【効果】

当学級の児童は、握ったまま描画部を画用紙に着けることが難しく、教師と一緒に握って無理に方向を変え、描いていた。また、描画の難しさからか、「自分で描いた絵じゃない」という意識からか、苦手意識が強くなっていた。

けれどこれを使い始めてから、「自分で描ける」という喜びがあふれ、描画活動になると大喜びするようになった。握ることも、腕を動かすことも苦手なはずなのに、画用紙をじっと見て、一生懸命腕を動かして、自力で線や点を描くようになった。

参考文献・Web